

「環境ホルモン戦略計画 SPEED'98」の改訂作業について（案）

1. 経緯

環境省は、内分泌攪乱化学物質についての環境省の基本的な考え方及びそれに基づき今後進めていくべき具体的な対応方針を収録するために、1998年5月に「環境ホルモン戦略計画 SPEED'98」を発表（2000年11月に改訂）し、これに基づき、本問題に対する様々な取組を進めてきた。

具体的には環境実態調査を進めるとともに、ミレニアムプロジェクト等により有害性評価、スクリーニング試験法開発等の取組を進める他、日英・日韓共同研究や国際シンポジウムの開催を推進してきており、これら様々な取組を通じて多くの成果をあげることができている。

また、国際的には、2002年8月には、WHO がこれまでの内分泌攪乱化学物質に関する科学的知見をとりまとめ、グローバルアセスメントを発表している他、OECD はスクリーニング・試験法開発について一定の成果を上げている。

このように、内分泌攪乱化学物質については、未解明な点が多いものの、「奪われし未来」が発刊された1996年以降、様々な調査研究が国内外において進められており、科学的知見が着実に蓄積されつつある。

2. 目的

上記のように、これまでに得られた国内外の科学的知見及び WHO や OECD 等の国際状況等を踏まえて、SPEED'98 について新たな科学的知見を踏まえて追加・修正するとともに、今後の環境省としての対応方針等について明確に記載する。

3. 具体的な作業手順について

SPEED'98 改訂ワーキンググループを設置し、作業を進める。

ワーキンググループは、環境保健部長の諮問機関として設置されている「内分泌攪乱化学物質問題検討会」の下部組織とし、検討状況を同検討会に適宜報告する。

4. 委員構成（案）

氏名	所属
青山博昭	（財）残留農薬研究所毒性第一部生殖毒性研究室長
有田芳子	全国消費者団体連絡会事務局
井口泰泉	岡崎国立共同研究機構
井上 達	国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長
鈴木継美	東京大学名誉教授（座長）
中園 哲	北九州環境科学研究所所長
長濱嘉孝	岡崎国立共同研究機構
花岡知之	国立がんセンター研究所支所臨床疫学研究部疫学研究室長
森田昌敏	国立環境研究所統括研究官
山口孝明	住友化学工業株式会社レスポンシブルケア室

5. 検討課題（案）

これまでの取組の評価

今後の取組の目標

科学的に対応すべき課題

- ・現時点でどこまでわかっているか
- ・今後どういった研究をすべきか
 - スクリーニング・試験法
 - 有害性評価
 - 曝露評価
 - リスク評価
 - 遺伝子技術等の基礎的研究
 - 環境実態調査
 - 実態把握

制度的に対応すべき課題

- ・リスク管理のあり方
- ・情報の公開・普及のあり方

上記課題への取組の進め方

- ・個々の課題の優先順位
- ・国際協力・貢献のあり方
- ・進捗状況の評価のあり方
- ・人材育成
- ・データベースの構築

その他

- ・内分泌攪乱作用が疑われる物質のリストの取扱い
- ・競争的資金の活用
- ・その他必要な事項

6. 検討方法（案）

基礎データ・資料の収集

有識者等からのヒアリング

その他